

## 作者の意図を推理しよう ～文章構成に注目する～ 『少年の日の思い出』ヘルマン・ヘッセ（東京書籍）

本単元で育成する資質・能力

高い志, 知識, チャレンジ精神, 粘り強さ, 他者理解

### 単元について

本単元は、中学校学習指導要領（平成20年）国語第1学年「C読むこと（1）エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。」に基づいて設定する。

中学校学習指導要領解説国語編（平成20年）には、「C読むこと（1）エ」について、「文章の構成や展開、表現の特徴をとらえ、それについて『自分の考えをもつ』というところに指導の重点がある。」とあり、さまざまな形態の文章の構成や展開、表現の特徴を分析的にとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもつことを求めている。

本単元で中心的に扱う『少年の日の思い出』は「私」と「客」が語らう前半部分と「客」が少年時代を振り返って語る後半部分の2つの部分から構成されており、前半部分で描かれる夕方の光の明るさと暗さの対比は、後半で語られるチョウを巡る思い出の美しさと苦さの伏線となっていることが大きな特徴である。

そこで、本単元を貫く言語活動を「作者の意図を書きまとめよう」とする。これまでに学習した文学的文章（『飛べかもめ』『さんちき』）と比較しながら、文章の構成や展開、表現の特徴をとらえ、作者が前半部分と後半部分の2部構成にした意図を推理し、自分の考えを表現させる単元とした。

### 生徒の実態

本学級の生徒は、文学的文章（『飛べかもめ』『さんちき』）での学習を通して、登場人物の心情について、登場人物の言動や情景の描写などに用いられている言葉を手掛かりにしながら理解したり、出来事を通して、登場人物の心情がどのように変化したのかを説明したりする学習を行ってきた。登場人物の心情理解について、91.4%（35人中32人）の生徒が満足できる状況にあるが、8.6%（35人中3人）は、例えば、「涙が出た。」という表現があれば、「涙＝悲しい気持ち」ととらえ、どのような理由から涙が出たのかということのを他の表現から確かめられていなかった。登場人物の心情変化を説明することについては、85.7%（35人中30人）の生徒が満足できる状況にあり、14.2%（35人中5人）の生徒も説明の型を示すことで、心情変化を説明できたため、おおむね満足できる状況にあるといえる。

また、『風の五線譜』や『詩の心』の学習を通して、表現の特徴をとらえ、その効果を説明する学習を行っている。表現の特徴をとらえることについては、ほぼ全員が理解できているが、効果を説明することについては、85.7%（35人中30人）の生徒がおおむね満足できる状況にあるものの、14.2%（35人中5人）の生徒は、どのような効果があるのかイメージすることができなかった。

さらに、自分の考えを根拠と理由付けを明らかにしながら述べることについては、74.2%（35人中26人）の生徒はおおむね満足できる状況にあるものの、25.7%（35人中9人）の生徒は、例えば、「○○と書いてあるからだ。」「○○という特徴があるからだ。」というように、根拠と理由付けとの間に混乱が見られる。そのため、意見と根拠と理由付けを図式的に示し、説得力のある意見の述べ方について習熟を図っているところである。

## 単元の指導

課題設定の場面では、『少年の日の思い出』を読んだ感想を交流したり、これまでに学習した文学的な文章（『飛べかもめ』『さんちき』）とを比較したりすることを通して、「なぜ、作者は作品の前半部分を書いたのだろうか。」という問いに対する予想を立てる。そして、作者が前半部分を書いた意図を推理して自分の考えを書くために、どのような学習をしたいかを生徒に挙げさせたり、指導者が学んで欲しいことを説明したりしながら、一緒に学習計画を立て、学習目標を設定させる。

情報の収集や整理・分析の場面では、前半部分の光の明るさや暗さを表す描写や後半部分のチョウを巡る思い出の美しさや苦さを表す描写を読み取らせ、ワークシートを用いて、表に整理させる。また、作品の最後の一文である「そしてチョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった。」という行動の意味を考えることを通して、少年時代を振り返る「客」の思いをとらえさせる。

まとめ・表現の場面では、ここまでの学習を活かして、作者が作品の前半部分を書いた意図について、自分なりの考えを書かせる。

実行場面では、自分と近い考えをもっている他者と交流しながら根拠と理由付けを確かめたり、ワークシートを用いて根拠と理由付けを書き分けたりしながら、作者が作品の前半部分を書いた意図について、自分の考えを記述させる。

振り返りの部分では、互いに考えたことを交流しながら作者の意図についての考えを深めるとともに、これまでに各自が読んだ文学的な文章の構成についても、作者の意図を考えさせる。

各場面で、各自が登場人物や作者と対話して考える場面や、他者との意見交流をして考えを広げたり深めたりする場面を設定し、自分の考えをもつことにつなげさせる。

## 単元の目標

- 文章の構成や展開，表現の特徴に注目しながら，読もうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

- 前半部分を書いた作者の意図について，根拠と理由付けを明らかにしながら，自分の考えをもつことができる。

【C読むこと（1）エ】

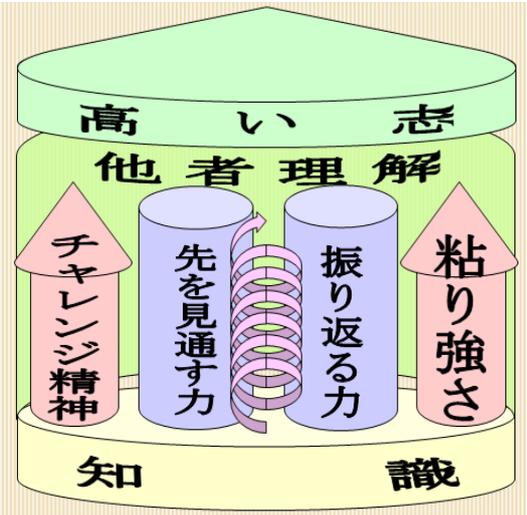
- 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読むことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（イ）】

## 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
単元を貫く言語活動： 「作者の意図を推理しよう」 ～文章構成に注目する～		
① 単元の見通しをもち，学習目標を立てて学習に取り組もうとしている。 ② 文章の構成や展開，表現の特徴に注目しながら，読もうとしている。 ③ 作者の意図について，自分の考えを書こうとしている。 ④ 単元全体を振り返り，学びのポイントを整理しようとしている	① 作者が前半部分を書いた意図について，予想を立てている。 ② 対比的な描写に注目しながら，読み取ったことを整理している。 ③ 少年時代を振り返る「客」の思いをとらえている。 ④ 作者の意図について，自分の意見を書いている。	① 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読んでいる。

## 育成しようとする資質・能力の本単元とのかかわり

<p>本校生徒に身につけさせたい7つの力</p> 	<p>〈高い志〉 ○ 内容を的確に理解するとともに、その構成や表現の仕方の意図や効果について読み味わう。</p> <p>〈知識〉 ○ 文脈上の語句の意味をとらえて登場人物の心情を理解したり、文章の構成や展開、表現の特徴に注意したりして読む。</p> <p>〈振り返る力〉 ○</p> <p>〈先を見通す力〉 ○</p> <p>〈チャレンジ精神〉 ○ 作者の意図を推理して、自分の考えを書く。</p> <p>〈粘り強さ〉 ○ 根拠と理由付けを明らかにしながら、自分の考えを書く。</p> <p>〈他者理解〉 ○ 登場人物や作者と対話したり、他者との交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p>
--	---

## 指導と評価の計画

(全8時間)

次	学習内容 (時数)	評 価				
		関	読	知	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
1	<p><b>課題の設定</b></p> <p>○ 「作品の魅力を書きまとめよう」という学習に見通しをもつ (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感想を交流する。</li> <li>・ 既習の文学的な文章と比較して、構成上の特徴をとらえる。</li> <li>・ 作者が前半部分を書いた意図を予想する。</li> <li>・ 学習計画を立てる。</li> </ul>	○	◎		ア① (自己評価表への記述) イ① (ノートへの記述)	
2	<p><b>情報の収集① 整理・分析①</b></p> <p>○ 対比的な描写を読み取り、表に整理する。 (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前半部分の対比的な光の描写をとらえる。</li> <li>・ 後半部分のチョウを巡る対比的な思い出をとらえる。</li> </ul>	○	◎	○	ア② (ワークシートへの記述) イ② (ワークシートへの記述) ウ① (ワークシートへの記述)	知識 (ワークシートへの記述) 他者理解 (ワークシートへの記述)
3	<p><b>情報の収集② 整理・分析②</b></p> <p>○ 少年時代を振り返る「客」の思いをとらえる。 (1.5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「一つ一つ」「指で」「粉々に」という表現に注目し、「僕」の思いをとらえる。</li> <li>・ 少年時代を振り返る「客」の思いをとらえる。</li> </ul>	○	◎	○	ア② (ワークシートへの記述) イ③ (ワークシートへの記述) ウ① (ワークシートへの記述)	知識 (ワークシートへの記述) 他者理解 (ワークシートへの記述)

4	<b>まとめ・表現</b> ○ 作者の意図を推理し、自分なりの考えを書く。(0.5時間) ・ 根拠や理由付けを明らかにして書く。	○			ア③ (ワークシートへの記述)	チャレンジ精神 (ワークシートへの記述)
5	<b>実行</b> ○ 作品の前半部分を書いた作者の意図を推理し、根拠と理由付けを明らかにして自分の考えを書く。(1時間)【本時】 ・ 根拠や理由付けを確かめる。 ・ 他者の意見を聞き、取り入れる。 ・ 自分の考えをもう一度書く。	○	◎		ア③ (ワークシートへの記述) イ④ (ワークシートへの記述)	粘り強さ (ワークシートへの記述)
6	<b>振り返り</b> ○ 他の文学的な文章について、文章構成の意図を考える。(1時間) ・ 他の文学的な文章について、文章構成の意図を考える。 ・ 学びのポイントを記述する。	◎			ア④ (自己評価表への記述)	高い志 (ワークシートへの記述)

## 本時の学習（7／8時間）

### （1）本時の目標

作品の前半部分を書いた作者の意図を推理し、根拠と理由付けを明らかにして、自分の考えを書くことができる。

### （2）本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項（◇） 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て（◆）	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
<b>1 前時の復習をし、本時のめあてを確認する。(5分)</b>			
○ 前時までの確認をする。  ○ 本時のめあてを確認する。	◇ 対比的な描写を読み取り、表に整理したことや少年時代を振り返る「客」の思いをとらえたことを確認する。		
交流を通して、前半部分を書いた作者の意図について、自分の考えを深めることができる。			
○ 学習の流れを確認する。	◇ 説得力のある推理とするために根拠や理由付けを確かなものにすることや、作者の意図は1つとは限らないことを確認する。 ◇ 学習の流れを示す。 ① 似た考えをもっているグループで、根拠と理由付けを確かめる。 ② 発表を聞くことで考えを広げる。 ③ 自分の考えに付け足しをして、もう一度自分の考えを書く。		
<b>2 根拠と理由付けを確かめる。(10分)</b>			
○ 小グループで根拠と理由付けを確かめる。	◇ 似た考えをもっている小グループをあらかじめ作っておく。 ◇ 何を根拠に考えたのか、その根拠に基づいてどのように理由付けにしたのかを確かめさせる。		少人数グループの活用

	<p>◆ 気付いたことはワークシートに書き込ませる。</p> <p>◇ ホワイトボードに簡潔に書かせ、黒板に貼り出させる。</p>		
<b>3 他者の考えを聞き、自分の考えを広げる。(10分)</b>			
<p>○ 自分の考えを発表する。</p> <p>○ 他者の発表を聞く。</p>	<p>◇ 根拠と理由付けを分けて発表させる。</p> <p>◇ 全グループの発表にこだわらない。</p> <p>◇ 自分と違う考え方はワークシートに書き込み、自分の考えを書くときに活かすように声を掛ける。</p>		
<b>4 作者が前半部分を書いた意図を考え、根拠と理由付けを明らかにして書く。(20分)</b>			
<p>○ 本時の評価の仕方について知る。</p>	<p>◇ 評価基準を共有する。</p>	イ④ (ワークシートへの記述)	粘り強さ (ワークシートへの記述)
	<p>【「おおむね満足できる」状況（B）と判断する根拠】</p> <p>○ 前半部分を書いた作者の意図を推理し、根拠と理由付けを明らかにして自分の考えを書いている。</p> <p>〈記述例〉</p> <p>私は、作者が前半部分を書いたのは、読者に後半部分への期待をもたせるためだと思う。</p> <p>前半部分の光の明るい描写と暗い描写の対比は、後半部分のチョウを巡る美しい思い出と苦い思い出の伏線となっている。</p> <p>このことから、読者が前半部分を読むことで、「客」の少年時代に何があったのだろうと疑問をもち、その内容を早く知りたい、早く読みたいという気持ちにさせているといえる。</p>		
	<p>【「十分満足できる」状況（A）と判断する根拠】</p> <p>○ 前半部分を書いた作者の意図を多面的に推理し、根拠と理由付けを明らかにして自分の考えを書いている。</p> <p>〈記述例〉</p> <p>私は、作者が前半部分を書いたのは、読者に後半部分への期待をもたせるためだと思う。</p> <p>前半部分の光の明るい描写と暗い描写の対比は、後半部分のチョウを巡る美しい思い出と苦い思い出の伏線となっている。</p> <p>このことから、読者が前半部分を読むことで、「客」の少年時代に何があったのだろうと疑問をもち、その内容を早く知りたい、早く読みたいという気持ちにさせているといえる。</p> <p>また、最後まで読んだ後に、読者自身に生き方を考えさせるためだと思う。</p> <p>最後の一文の「一つ一つ」「指で」「粉々に」という表現からは、「僕」の後悔の気持ちや同じことを繰り返さないという決意が感じられる。</p> <p>このことから、「僕」がその後どのような人生を歩んできたのかとか、自分に同じようなことが起こったらどうしようかと想像させているといえる。</p>		
<p>○ 書いたものを発表する。</p>	<p>【「努力を要する」状況（C）と判断する生徒への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に貼っているホワイトボードの中から、納得できるものを選ばせる。</li> <li>・根拠と理由付けを一緒に確かめる。</li> <li>・どのようなことを説明したいのかを確認し、補助する。</li> </ul>		
<b>5 本時の振り返りをする。(5分)</b>			
<p>○ 自己評価表を記述する。</p>	<p>◇ 学習を振り返り考えたことや難しかったこと、さらに考えたいことを書かせる。</p>		
<p>作者の意図は、構成だけではなく、題名や内容からも考えられることが分かった。「読者にどのようなことを考えさせたいのか。」ということがポイントだと思う。</p>			

○ 次時の学習内容を確認する。

(3) 板書計画

<p>本時のまとめ</p> <p>作者の意図はくくから読み取れる。</p> <p>評価の仕方</p>	<p>○ 題名に注目したもの</p> <p>ホワイトボード</p> <p>○ 登場人物の心情に注目したもの</p> <p>ホワイトボード</p> <p>○ 構成に注目したもの</p> <p>ホワイトボード</p>	<p>本時のめあて</p> <p>作品の魅力を書きまとめよう 文章構成に注目する</p> <p>少年の日の思い出</p> <p>ヘルマン・ヘッセ 高橋 健二 訳</p> <p>作品の前半部分を書いた作者の意図を推理し、根拠と理由付けを明らかにして、自分の考えを書くことができる。</p> <p>学習の流れ</p>
--	--	--

検 証

<p>(1) あなたは、作者が前半部分を書いた意図をどのように考えますか。作者の意図を二つ推理し、根拠と理由付けを明らかにして説明しなさい。</p> <p>【予想通過率 70%】</p>	<p>一、『少年の日の思い出』を読んで答えなさい。</p> <p>文章</p>
---	---